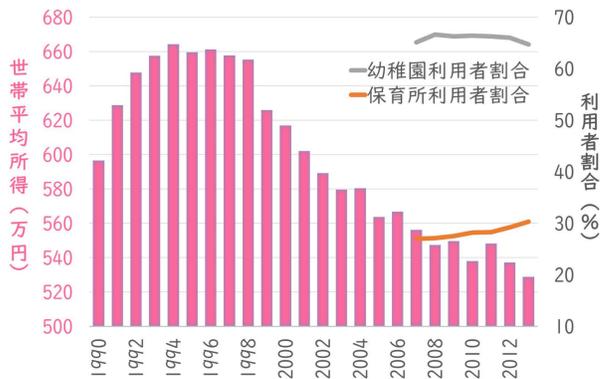


# 子育てミシュランで地域の価値を高める

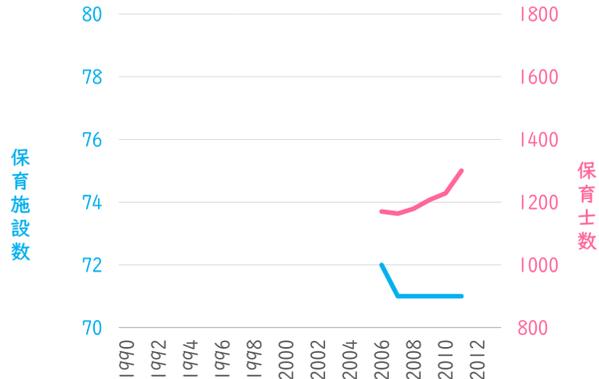
建築都市デザイン学科 代表者 糸井川高穂、協力者 建築環境研究室4年生、大学院生

## 数年後に表面化する子どもの安全上の課題

### Stage 1 共働き世帯の増加



### Stage 2 ベテラン保育士率の低下



### Stage 3 保育の安全の低下

**Stage 1**  
低所得層が増えるに従い、共働き世帯は増える。共働きが増えるに従い、保育園を利用する家庭が増える。

**Stage 2**  
保育園は増え、保育士も増えてはいる。しかし、子どもの安全に配慮することのできる余裕を持った保育士の割合は低下する。今後増やされゆく学童保育の指導員にも保育士の資格が求められており、経験豊富な保育士の割合は一層低下する。

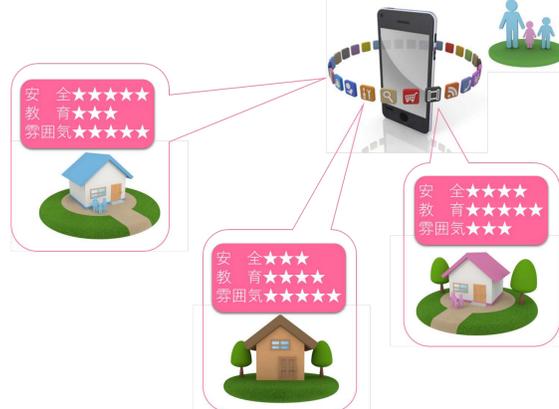
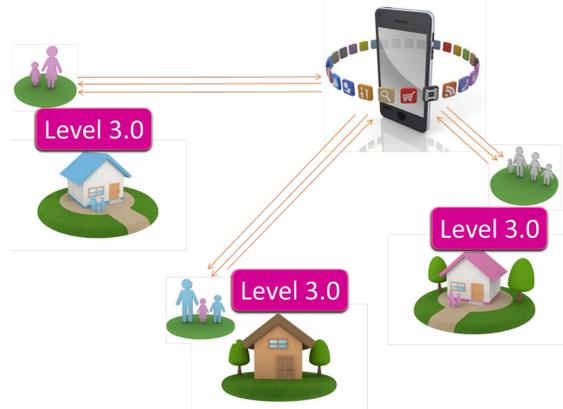
**Stage 3**  
何もしなければ、保育の安全は低下する。

## ベテラン保育士率が低下しても子どもの安全を向上させる対応策

### Plan 1 改善案の共有

### Plan 2 情報の共有・公開

### Plan 3 継続的な改善



**Plan 1**  
ヒヤリハットの段階で、危険事例の改善案を作成し、保護者や他の保育施設と共有することで、地域の保育施設の安全が向上する。

**Plan 2**  
安全を含む保育施設の取り組みを保護者が評価し公開することで、新入園児の保育園選択時のミスマッチが減る。保育施設は、高い評価を得ようと自主的に改善案を考案・収集・情報提供するようになる。

**Plan 3**  
各保育施設が互いの長所を繰り返し真似しあうことで、地域の安全や地域の価値は継続的に向上する。

## 試作版 子育てミシュラン 公開中

「宇都宮大学 糸井川」で検索→「人間環境工学グループ」HP→Latest Articles→子どもミシュラン紹介ブログ内にリンク掲示中

